

よりた寺通正

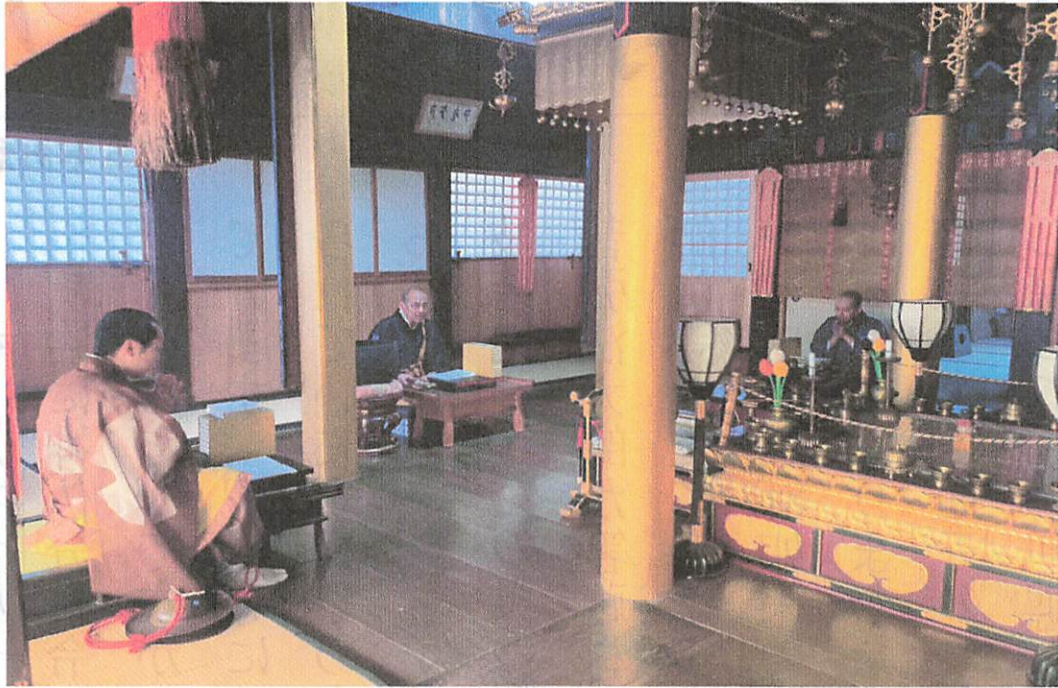
号盆お年五和令

箸蔵大権現

はしづらだいこんげん

明治に神仏分離令が出されるまでは、仏教と神道は境目がありませんでした。ですから各お寺には今でも鎮守として神様がまつられています。正通寺には裏山に「六処権現」として六柱の神様がまつられています。その中の一つが箸蔵大権現です。毎年七月十一日にお祭りをしています。昔は夜店も出ていたそうです。箸蔵さまは讃岐金比羅さんの奥の院の阿波箸蔵寺にまつられている金比羅様です。昔弘法大師が箸蔵村でお休みになっているところ姿をあらわし、大師に寺をたてるようにすすめたといわれています。金比羅さまはインドでは薬師如来の護衛の十二の將軍の一人であり、日本に来て金比羅と名乗りました。金比羅とはインドの言葉のクンビラの音写なのです。正通寺の本尊は薬師如来ですから、この山に本尊の護衛とし祭られ、門前地域の鎮守となっているのです。

景風會法般若大現權大藏箸



本地垂迹

「ほんじすいじゃく」と読みます。ほんじとは神様の本籍本名、すいじゃくとは神様の現住所現地名のことです。伊勢の大神は大日如來のすいじゃく、八幡さまは阿彌陀如來、大國主命は大黒といわれています。箸藏・金比羅はクンビラ大將です。このほんじすいじゃくの神を「権現」ゴンゲンといいます。佛や菩薩や天人が「権」（かり）に「現」われたという意味です。日本に仏教が伝来して以来、明治になるまで、ずっと神と佛は一体とされていました。正通寺ではいまでも神仏は習合されています。